

園番号 610

令和元年度 奈良市立明治幼稚園

研究実践概要

園長名 岡田 千代美

全園児数 23名

1. 研究主題 豊かな心をもち意欲的に活動する幼児の育成
～身近な環境とのかかわりを通して～

2. 研究年度 2年度

3. 研究主題設定理由

様々なひと・もの・こととの関わりを通して、遊びや生活を広げるとともに人と
かかわる喜びや思いやる心を育て、意欲的に活動する幼児を育てたいと考え主題を設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

- 様々なひと・こと・ものと関わり、様々な感動体験をする中で、心豊かにいきいきと生活しようとする力を育てる。
- 幼児の発達の見通しをもち、家庭・地域・小学校との関係を蜜にしながら幼児が主体的にかかわり、豊かな心を培いたくましくいきいきと活動する為に必要な環境構成や保育者の援助のあり方を探る。

②研究の重点

- 研究主題について、職員相互の共通理解を図り、様々な人と出会う行事や活動のあり方を工夫し、日々の保育の中で実践する。
- 豊かな感動体験や地域の人材活用を通して、人間形成の基礎となる生活態度や心情を育む。
- 家庭・地域・小学校が連携を図り、様々な人とかかわりを通して満足感・充実感・自立心・感謝の心を育む教育的意義のある体験を積み重ねていくようにする。

③活動の方法

【落ち葉を集めて遊ぼう】《異年齢交流》

4月、初めての幼稚園に期待と不安を持って入園してきた4歳児。担任の丁寧なかかわりと5歳児との交流を繰り返すことにより、安心した生活を送れるようになった。4歳児、5歳児が共通経験や一緒に遊ぶ中で、互いの生活や動きにも興味をもち、憧れや思いやりの心が育ってきた。

秋になると、園庭の木々の葉がとてもきれいな紅葉となる。その落ち葉を使って、作品作りや、ままごと遊び砂場遊びが展開される。4歳児が落ち葉を見て、「落ち葉いっぱいあるね」「みんなで集めてみよう」と、二人のやり取りに一人また一人と集まってきた。落ち葉は、たくさん集まり、「この前さつまいも堀でおいもがたくさんとれたから焼き芋パーティをする？」との5歳児の提案に「うん。でもおいももうないよ。」と4歳児たちは思った。すると、5歳児は、「作ったらいいやん」その言葉に、4歳児は、な



るほどと思い、様々な材料を使って作り出した。その様子に、たくさん園児が集まりだし焼きいもごっこが始まった。5歳児の、「おいもが焼けたら、食べる場所もあるね」との発想から、隣に、レストランを作り、どんどん遊びが広がっていった。

(評価・反省)

4歳児にとっては、幼稚園での生活の中に、たくさんの発見がある。四季を通して遊びが広がる中、5歳児の姿は頼もしく、憧れの存在である。一緒に活動する場を提供することで、少しずつ、心を開き思いを伝え、遊びがより広がるようになってきた。5歳児にとっては、異年齢とのかかわりで優しく思いやる姿が見られ、共にいきいきと遊べるようになってきた。

【合同避難訓練】《地域の方との交流》



毎月行っている避難訓練（火災・地震・不審者対応）と年2回の地域の方と合同避難訓練（保護者・地域消防分団・地域女性防災クラブ）を行っている。

その中で、地域女性防災クラブから、『手作りの防災頭巾』（バスタオルを利用して、中に災害時に必要な生活用品を入れる）教えてもらい、二年続けて保護者向けに講習を受けた。好評で今年は『園児用防災頭巾』を保護者の方に作ってもらった。

出来上がった防災頭巾は、園児椅子の背もたれにかぶせ、いざという時に身を守り、避難する。毎回の避難訓練で活用し、親子共々、防災意識を高めている。

(評価・反省)

毎月の避難訓練に加えて、地域の方の協力もあり、防災に関することを紙芝居や実際に防災グッズを見せてもらう等、園児、保護者、地域が一緒になり子どもの命を守り、防災意識を一層高めることとなった。

【作品展】《幼小連携》

秋の遠足で行った「京都動物園」の動物を作品展で見事に作りあげた。5歳児は、大きなキリン、4歳児はゴリラを共同で作った。自分の思いを出しながら、みんなで相談もし、丁寧に仕上げていた。毎年作品展では、保護者の方や、地域の方、小学校1・2年生が、見学に来てくれる。

今年も、小学生が見に来てくれて「すごく上手にできています」と感想をもらった。一生懸命に取り組んだ成果を、多くの人に褒めてもらい、やりとげた充実感や達成感が自信につながった。小学校の作品展も見学させてもらい興味深く見てまわっていた。互いに作品展を見た感想を絵や手紙として届けあった。「小学校に行ったら、字もじょうずに書けるんだな」「褒めてもらって、嬉しいな」と小学校への期待がもてた。



(評価・反省)

隣接する明治小学校との幼小連携。年間計画をたてながら、様々な交流を深めている。を重ねる中で、小学生の優しい気持ちや思いやる心が幼稚園児に伝わり、小学校への期待が高まった。

5. 研究の成果

- 様々なひと・もの・ことの出会の中で、親近感や信頼関係ができ、人間形成の基礎となる姿へと、成長した。
- 幼児の発達の様子を見据え、環境（人的・物的）を整え提供することで、園児に様々な力がつき、豊かな心をもっていきいきと活動する姿へと成長が見られた。
- 身についた自信が次の生活、活動につながる意欲へと変わった。

6. 今後の課題

- 保育内容や環境構成の工夫をし、幼児一人一人が意欲的に生き生きと活動できるようにしていきたい。
- 今後も、家庭・地域とのつながりをより深めて、様々な体験を積み重ねていくことで幼児一人一人の感性を豊かに育み、様々な力（10の姿の力）をつけ、小学校への学びにもつなげていきたい。